

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 26 号 (1 月 7 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新年にあたって

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は、県総体で惜しくも全国への切符を取り損ね、大変悔しい思いをしました。新人チームは、昨年と異なり、Yリーグでの戦いでなかなか勝つことができず、苦しい時期を過ごしました。が、その後に行われた県新人と選手権県予選では「まぐれ当たり」し、県新人では2位で東北新人の切符をつかみ、選手権では4強入りを果たし、県総体2位という成績と合わせ最終的には出来過ぎの一年だったのではないかと、思います。とても勝負強い戦いができた、というのが2010年の特徴だったと思います。そうした活躍が評価され、校内の運動部に贈られる松田杯を受賞し、笑顔で一年を締めくくることができました。

しかし、年頭にあたりやはり去来する思いは、昨年も全国に行けなかった、ということ。そして今年こそ、絶対に思いをものにしたい、ということ。選手諸君、2位とか3位とかに浮かれてはいないか¹? 一度も頂点に立っていないことをどう考えるのか? 自分自身への戒めとしても、1位になることへの強烈な渴望を忘れず今年一年過ごしたいと、思います。県総体まで、5ヶ月を切りました。IH(ジャーじゃありません)に行けば「寿命」は延びますが、それにしあって現2年生の高校サッカー生活も残りわずかです。選手権まで戦える他チームとは異なる山東の宿命²をよくかみしめながら、練習に励んでほしいと、思います。1年生も今年・今月・今週・今日・今成し遂げると、いう思いを持ってトレーニングしなければ、有望な新生にすぐポジションを奪われることを肝に銘じてほしいと、思います。

また、今年こそ、県リーグ1部(Y1)で上位争いに加わりたとも思っています。途中から新チームになりますが、そのことを逃げ口上にせず、勝ち点を積み上げたいです。来季はプリンスリーグ東北(東北リーグ)から日大山形と山形中央が落ちてきたことで、Y1での戦いが熾烈になることが予想されます。言い訳ばかりしていると、2部落ちはすぐ、でしょう。そのために何より重要なのが、やはりサッカーの実力。新人チームは実力不足を勝負強さで補う戦いが目立ちましたが、それではやはり限界があります。いつもいつも「まぐれ

¹ 「すごいですね」などと褒められると、悪い気はしません。新人チームの選手諸君も、ちやほやされて良い気分になっていることでしょう。しかし、1位になっていないのに褒められるということは、多くの方が2位や3位の成績も山東にしては出来過ぎと考えているということ、と斜に構えてうがってみるのも、勝負の世界に生きる者としては必要な心構えのような気がします。山東の「実力」を考えると、多くの方が好成績の意外さに驚き褒めたくなるのも分かりますが、2位や3位で褒められる状態に安住してはいけません。

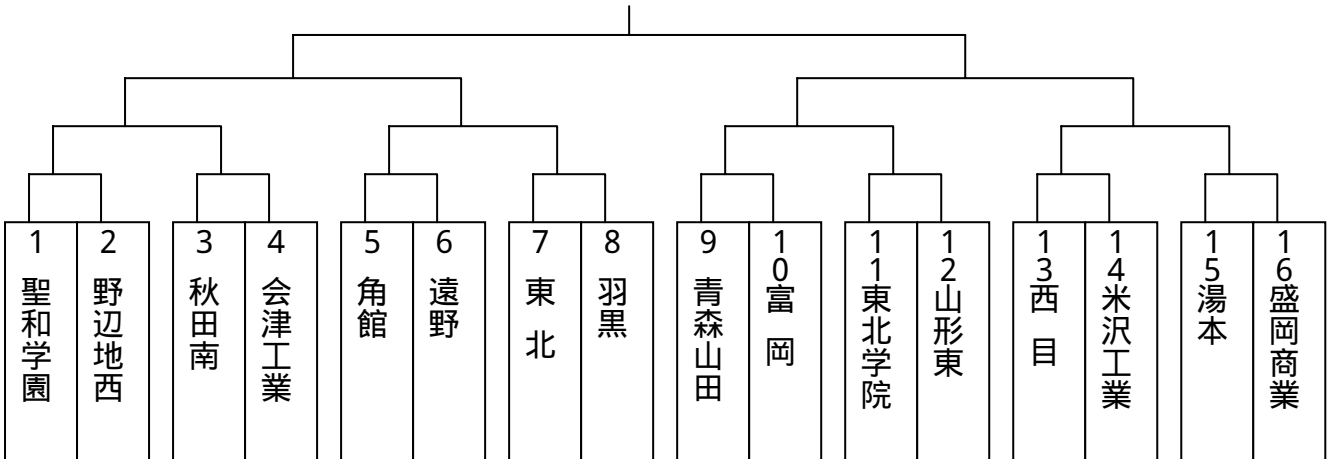
² とはいえ、現顧問今野も前顧問渡辺晃先生も山東サッカー部OBですが、選手権予選に出ました。顧問としては3年生が残ることは大歓迎なのですが・・・。

当たり」するわけじゃないのですから。

ともかく、今年一年頑張りますので、昨年と同様のご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

東北新人 組み合わせ決定

東北新人の組み合わせが決定されました。2月5日(土)の一回戦の相手は、宮城2位の東北学院高校となりました。詳しい日程・時間が決まりましたらまたご連絡いたします。



高校サッカー選手権を観戦して

年末年始、例年通り私(今野)は妻の実家のある埼玉県で過ごしました。その「地の利」を生かして、毎年、全国高校サッカー選手権を観戦に行っております。今回も行ってまいりました。特に今回は山形県高体連サッカー部からの派遣ということで、パンフレットとメモ帳を片手に、「真面目に」観戦してきました³。それらのレポートは2010年の県サッカー年鑑に掲載されますので、お楽しみに(年鑑が手に入らない方などのために山形東サッカーOB会HPにUPしてもらおうことにします)。

細かくはそのレポートをご覧ください。スタジアムで感じたこと一つ。観客は子供から老人まで幅広い層。年末年始だということに、そして、どちらかの応援に来た方ばかりではないのに、選手権は人気なのだな~と感じる程の人の入り具合。やはり高校サッカー最高の大会、注目度が違います。そしてスタジアムが立派。NACK5(大宮公園)などはキャパシティー(収容人員)は少ないものの、サッカー専用スタジアムはやっぱり良い!と感じさせてくれます。山形にも(陸上トラックがなく観客席とピッチがすぐの)サッカー専用スタジアムがあればな~、モンテの応援にも力が入るのにな~としみじみ感じました。

³ 妻の実家に帰っても私がサッカー観戦ばかりに行っているものですから、保護者の方などから「義理の両親孝行しなくてもよいのか」「妻の実家に居場所がなくて外出しなければいけない状態なのでは」と心配されることがありますが、義理の父はサッカー経験者で、私がいなくとも毎年選手権を観戦に行っていたような方なのです(現在は両親とも年間シートを毎年買っている浦和レッズの熱烈サポーターです)。今年は合計4日スタジアムに赴きましたがそのうち2日は義父と一緒に行きました。皆さん、ご安心を。